孫やひ孫の来訪を楽しみに
豊間根の田鎖さん100歳迎える

豊間根の田鎖ジュンさん（大正２年生まれ）は12月10日、100歳の誕生日を迎え、自宅を訪れた佐藤町長がお祝い金を贈呈してことほぎました。豊間根で生まれ育ったジュンさんは20歳で農家に嫁ぎました。９人の子宝に恵まれ、８人の孫、９人のひ孫もできました。数年前から家族の介護を受けながら暮らしていますが、元気なころは野良仕事の合間に庭でスイセンなどの草花を育てるのを楽しみにしていたということです。最近では孫やひ孫が休みの日に遊びに来るのを心待ちに毎日を過ごしています。

知事と高校生７人が懇談
「地元の底力で復興へ」

達増拓也・岩手県知事と宮古地域の七つの県立高校の生徒が懇談する「がんばろう！岩手」意見交換会が12月12日、山田高校で開かれ、同校から山根慶大（けいた）くん（３年）が出席しました。山根くんは所属するボート部で、震災後に多くの人々の支援を受け国体優勝など輝かしい成績を収められたことに感謝。「東京五輪に出場し、将来は地元で生徒らにボートを教えたい」と夢を語りました。知事は「皆さんは復興の主役。地元の底力と様々なつながりが合わさって復興の力になる」と若者の活躍に期待しました。

災害に強い情報通信網を
第１回「ＩＣＴ復興街づくり検討会」開く

総務省推進のＩＣＴ（情報通信技術）を活用した災害に強い町を目指す第１回「岩手県山田町ＩＣＴ復興街づくり検討会」が12月３日、町役場で開かれ、学者や通信事業者、県・町の職員ら26人の委員が出席しました。

東日本大震災の被災自治体としては宮城県女川町に続き、２例目の取り組み。今年３月までに全３回の検討会と５回の作業部会を重ね、ブロードバンド（高速大容量）通信の環境整備や専用の地域通信網の構築、電子端末によって容易に行政情報を入手できるシステムづくりなどの計画について、報告書をまとめることになっています。

震災では電話回線や携帯電話の基地局、光ファイバー網などの通信設備が深刻な被害を受け、最長で18日間、電話が不通になった地域もありました。同検討会はそうした教訓を踏まえ、災害時に住民らに必要な情報を確実に伝えるため、ＩＣＴを生かした盤石な通信網の整備に向けて話し合うのが目的。課題は、光ファイバーによるブロードバンド回線が敷設されていない船越地区や豊間根地区の情報格差の解消などです。

第１回検討会で、佐藤町長は「社会的弱者を救う情報インフラを整備するため、専門的な知見による幅広い議論に期待したい」とあいさつ。柴田義孝（よしたか）座長（岩手県立大副学長）は「産・官・学・民の強みを結集し、山田町のケースが全国的なモデルになれば」と抱負を述べました。

今後の話し合いの方向性を確認した第１回検討会

町のわだい

今月の題字　阿部　陽向（ひなた）くん（山田北小１年）

開始の合図とともに一斉に水槽に入る参加者ら

やまだの鮭まつりを開催
つかみどりに歓声上がる

12月８日、山田魚市場特設会場において「やまだの鮭まつり」が開催されました。これは、山田の主力産業である漁業を理解してもらうと同時に、旬のサケを味わってもらおうと毎年開催されているものです。会場では物産販売コーナーとしてサケ、新巻、ホタテなどが出品されたほか、出店コーナーでは鮭汁やイクラ丼、焼きガキなどを販売。これらを求める大勢の来場者でにぎわっていました。そして鮭まつりのメーンイベントは、３回実施されるサケのつかみどり。われ先にと大物を狙う参加者と、それを応援する見物客で大いに盛り上がりを見せていました。

大沢地区で震災復興事業が着工
安全祈願祭が執り行われる

織笠、山田、大浦地区に続き、大沢地区震災復興事業が着工されました。12月９日、工事の無事を祈願する安全祈願祭を実施。神事終了後、佐藤町長は「住民に待ち望まれていた事業。今後も復興事業にまい進していく」とあいさつしました。同事業は、住まいの再建と漁業の再生を軸とし、土地区画整理事業と漁業集落防災機能強化事業を組み合わせたものです。範囲は合計で約21.1㌶。沿岸部には海面高さ9.7㍍の防潮堤が整備され、中心部は平均１㍍かさ上げされます。大沢地区には234戸の宅地と、県と町による災害公営住宅88戸が整備される予定です。